

秋田の土地改良

4

2010・APR



みどり
水土里ネット秋田

目次	水土里ネット秋田第52回通常総会……………	2	秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会第2回通常総会の開催…	14
	全国水土里ネット第52回通常総会(本会・高員会長が理事に選任)…	6	秋田県耕作放棄地対策協議会第3回通常総会の開催…	15
	第51回土地改良事業功労者表彰・農業農村整備優良地区コンクール表彰…	6	平成21年度雄物・米代川地域広域基盤確立推進協議会…	15
	東北農業農村整備推進協議会(農地集団化促進部会)優良地区及び功労者表彰…	7	特集・農業水利施設内の「ゴミ」問題(シリーズ①)……………	16
	土地改良事業振興基金制度のご活用を!……………	7	連合会日誌・会員だより……………	18
	平成22年度秋田県人事異動関係(農林水産部関係)……………	8	土地改良区合併認可証伝達式(二ツ井白神、秋田県雄物川筋)…	19
	平成22年度秋田県農林水産部関係新任挨拶……………	8	ため池百選……………	19
	平成22年度本会機構図及び職員配置……………	12	インフォメーション……………	20

第52回 本会通常総会

厳しい状況を踏まえた、新たな事業展開を!!



3月19日、本会第52回通常総会が県社会福祉会館（秋田市）において会員132名（内委任状43名）が出席、来賓として佐竹敬久県知事、森多可志東北農政局次長、富樫博之県議会議長、京野公子衆議院議員、金田勝年衆議院議員、佐藤文隆県農林水産部長ほか関係者多数が臨席のもとに開催された。

総会では高員会長が「未だかつて無い、厳しい運営状況であるが、私共に課せられた会員サポートを中心とする使命・目的を、可能な限り果たして行きたい（詳細別掲）」と開会の挨拶を述べた。また、来賓祝辞として佐竹知事が「世界的経済不況や昨年9月の政権交代により国内の経済、社会情勢は先行き不透明な状況となっている。こうした中、県では新たな県政運営の指針となる『ふるさと秋田元気創造プラン』を取りまとめ、最重点の1つに、新農林水産ビジネス創出を位置づけた幅

広い農林水産関連施策を推進することとしている。国の農業農村整備予算は大幅に削減しているが、引き続き、中長期的な視点での予算確保を国に強く働きかけて行きたい」と挨拶、引き続き、平成21年度の功績者表彰として優良9団体及び個人14名の表彰、来賓の方々の紹介や祝辞が述べられた。

議事では、議長に山本郡岩堰土地改良区理事長菊池博悦氏を選出し、平成20年度事業報告及び一般会計収支決算、平成21年度一般会計収支補正予算（理事会専決処分）、平成22年度事業計画及び一般会計収支予算などが審議され、提出案件はすべて承認された。

なお、事業計画では、新たな業務として①水土里情報を活用した業務展開、②小水力発電部門等の業務開発、③農業水利施設内の「ゴミ」問題に関する調査・研究に、取り組むことが承認された。

最後に、黒子専務理事により決議文(別掲)の朗読があり、満場の承認を得て採択され、総会は終了した。

なお、今回表彰された土地改良功績者表彰(優良団体及び個人)の受賞者は次のとおり。



受賞者の方々

【団体表彰：土地改良区】

- ◆金章 大館市、由利本荘市子吉
- ◆銀章 能代市種、秋田市孫左衛門堰、仙北市神代
- ◆銅章 秋田市旭川筋、飯田川、潟上市天王、西目

【個人表彰】

山内幸雄、鷲尾弘、牧野一、近藤慶悦、澤石進、近藤一彦、田口光雄、草礪隆、菅原哲男、田口了健、柴田清徳、柿崎美和子、藤原アヤ、佐藤修一

第52回通常総会あいさつ



水土里ネット秋田 会長

高 貝 久 遠

会員の皆様には年度末のご多用の中ご参会を頂きまして、誠にありがとうございます。

また、ご来賓の皆様方には万障をお繰り合わせの上ご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

皆様には日頃、農業農村整備事業の推進並びに本会の業務運営に、特段のご指導・ご支援を頂き、この席をお借りして、厚くお礼を申し上げます。

この後、引き続き表彰が行われますが、受賞される土地改良区並びに役職員の方々はいずれも農業農村整備事業の推進に貢献され、地域の発展に優れた功績を上げられた方々であり、心から敬意を表しますと共に、引き続き農業農村

の発展に特段のご尽力賜りますよう祈念申し上げます。

さて、一昨年アメリカに端を発する世界的経済不況からどうにか抜け出し、昨年6月に政府から景気回復宣言がなされた後、8月に実施された国政選挙において与野党逆転という劇的な政権交代が起きました。

その後の経過についてはご案内のとおりであります。平成21年度補正予算の事業仕分けによる見直しが行われた他、昨年暮れには前年度比36.9%という農業農村整備予算を盛り込んだ平成22年度予算案が閣議決定されたところであります。

本会としては、農水省及び全国水土里ネットの対応を注視しつつ県選出国會議員、秋田県、秋田県議会等に会員水土里ネットとともに鋭意要請活動を展開したところであり、去る1月18日には「平成22年度土地改良事業関連予算の確保に関する意見書の提出について」の請願書を秋田県議会宛提出し、全会一致により採択され、1月26日、衆参両院議長、内閣総理大臣、財務大臣及び農林水産大臣宛提出されたところであります。

また、本日ご出席頂いております佐竹知事に要請した際には、「全国知事会等を通じて国に訴えていきたい」という力強い言葉を頂いております。

ご来賓の皆様におかれましても、引き続き本会の運営に対しまして特段のご配慮をお願いする次第でございます。

次に21年度の財政収支の状況を申し上げますと、骨格をなす受託事業につきましては、平成20年度から実施されました国・県の新たな契約方式での受託が想定を上回ったことなどを勘案して、前年度比4.2%増で計上いたしておりましたが、年度内に順調に事業の受託を確保できたことから2月補正後、当初比2億5千6百万円増の10億2千5百万円を計上しております。

お陰様で、一般管理支出の削減に努めたこともあり、当期の収支差額は1億円を越し、前期繰越収入と合わせますと2億4千1百万円を次期に繰り越すことが可能となり、未だかつて無い財政逼迫が想定される平成22年度の貴重な財源となっております。

次に平成22年度の予算編成方針を申し上げますと国の農業農村整備事業予算の激減に伴い、本会の収入の太宗をなす受託事業収入を前年比1億8千6百万円減の5億8千3百万円と昭和54年当時の水準まで落とさざるを得ない状況となりました。

予算編成に当たっては不要不急の経費については徹底的に見直し、一般管理支出で3千6百万円を削減することとしたものの平成21年度の繰越金2億4千万円余りを組み入れ、かろうじて運営が可能な状況であることから、引き続き外部への発注を抑え、事務経費の削減に努め、厳しい財務状況を乗り越えられるよう組織のスリム化を図って参りたいと存じます。

次に平成22年度の事業計画等につきましては、後ほど議案として詳細申し上げますが、2、3申し上げたいと思います。

一つは、雇用創出をもとにした「水土里ネット支援対策事業」でございます。依然厳しい県内の雇用情勢に本会としても社会貢献を果たすべく、また会員に対する技術的サポートは本会の主要目的でありますので、維持管理計画書の

作成支援等を内容とする本事業を引き続き継続して参りたいと存じます。

次に新たに取り組む業務といたしましては、本会が取り組んで参りました水土里情報が、新政権のマニフェストに掲げた農家戸別補償業務に活用できる可能性があることから関係機関の指導のもと活用について検討して参りたいと存じます。

また、地球温暖化防止の観点から水力発電が見直されており、農業用施設での小水力発電の実施可能性を検討する他、施設の管理主体である土地改良区を悩ませている水路のゴミ問題に関する調査・研究に取り組んで参りたいと存じます。

昨今、地球規模での食料、人口、環境問題が深刻化しており、最近のテレビ放送等では海外の農地の囲い込み、いわゆる世界農地争奪戦ですとか温暖化による稲の不稔あるいは、果物の糖度上昇等による商品価値の下落等が報じられております。

こうした中、農業農村には安全で安心な食料の安定的な供給により国民の命を守るとともに、農業用水による小水力発電、バイオマスエネルギーなど地域資源の活用による循環型社会の構築、更に人と自然、都市と農村の共生など新たな役割が求められております。農業農村がこうした役割を適切に果たしていくためには、いわゆる多面的機能を有する農地や農業用水などの貴重な資源の適切な維持・保全を図るとともに管理主体であります水土里ネットの活性化が不可欠であります。

水土里ネット秋田といたしましては、未だかつて無い、厳しい運営状況ではありますが、私共に課せられた会員のサポートを中心とする使命、目的を可能な限り、誠心誠意を尽くして果たすべく事業計画を策定し、平成22年度の予算を編成したところであります。

提案申し上げました各議案について、よろしくご審議、ご決定賜りますようお願い申し上げますとともに本日、ご参会の皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念を申し上げ、開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。